



取組のかたち

車内が移動する「ふれあいサロン」に！
行ったり来たりでつながりづくり!!

届けたい人たち

団地内の近所付き合いが希薄になっている人
お出かけしたいけど交通手段が少ない人
誘い合える仲間を増やしたい人

私たちの軌跡

長崎県長崎市北部の昭和50年代にニュータウン開発された滑石地区を中心に、未就学児親子をサポートする滑石地区子育て支援センターを令和2年から運営している。令和5年には長崎市西部のみなと坂町に2カ所目となる西泊地区子育て支援センターの運営を開始した。
あわせて滑石地区にある小学校を中心に誰でも食べにこれる「みんなの食堂」を夏休みや冬休みなどに年に10回程度開催している。また、滑石地区で児童生徒のために活動する地域活動団体とともに、地域清掃や地域イベントに携わっている。

私たちの新たな取組

地域住民同士の交流の希薄化の問題が地域団体との活動の中で挙がっていたことから、“あらためて人と人のつながりを創出する”をキーワードに企画を立案した。
高齢化による免許返納や急斜面団地特有の上り下りの大変さから、日常生活の移動手段をコミュニティ空間に見立て、週3日(月・水・金)、1日3便の「つながりワゴン」を運行する取り組みを3ヶ月間の期間限定で実施した。

この取組が生まれた“はじまりの物語”

長崎特有の急斜面地に造成された長崎市北陽町の「上床団地」。昭和40年代に造成され、高度成長期の人口増加に伴うマイホームブームもあり、当時足腰も元気だった20代、30代の家族がこぞって上床団地にマイホームを新築。平成の始めの頃までは子育てに奮闘していた世帯も造成から50年以上が経ち、すでに子どもたちは巣立ち、団地には高齢者が残されてしまうことに。子ども中心に活発だった自治会活動も近年は先細りし、役員のなり手不足や自治会未加入世帯の増加で交流も激減している。そんな中、これからを見据え、世代に見合った新しい住民同士の関係性を築けないかと地域で活動するNPO法人が立ち上がった。

日常ではなく、“非日常”の生きがいを!

今回の「つながりワゴン」は、月水金の週3日、1日に3便(①10時②12時③14時発)を団地最上部を出発点に運行。運行当初は、買い物や病院、友人との約束、サークル活動などの日常の足として利用していたが、車内で一緒になる住民がつながり合い「グループでお出かけ運行はできないか?」と相談が多くなり、お出かけ運行を実施。利用者同士がLINEなどを使って誘い合いつながりを広げ、毎回2~4名程の新しい利用者を誘って、行き先や飲食店までも自分たちで企画ルートを決定。70歳代の女性利用者は「日常生活は何とかなるけど、プチ旅行みたいな非日常のお出かけが、子供の頃の遠足前のようにワクワクさせてくれた」と。

取組の成果

車内に配置した“コミュニケーションワーカー”が利用者との会話の中から日常生活の悩みや要望など、この地域の住民が今何を求めているのかを聞き出すことができ、これからの自治会活動や住民生活につなげることができそうである。利用者の多くが、自由にお出かけできる環境があれば…という思いが強い傾向だとわかってきた。ただ、今回の実証では利用者の約9割が女性であり、男性の孤立・孤独対策について、つながりワゴンにプラスしたアイデアの必要性も実感している。今回は1つの団地での実証実験だったため、次回は滑石地域というエリアと対象住民を広げて、孤立・孤独対策として運行していければと思う。

団体概要

団体名	特定非営利活動法人 なめしポテト
代表者	平 剛志
設立年月	2021年10月
住所	長崎県長崎市北陽町30-19
ホームページ	
メッセージ	“子供は地域の宝物！”をモットーに子育てや地域支援を実践中！

取組の様子



【上床団地DATA】

世帯数	180 戸
人口(1世帯率=2.21)	397 人
自治会加入世帯(加入率66%)	120 戸

【つながりワゴン運行DATA】

運航日数	33 日
運航便数	85 便

のべ乗車人数	434 人
一便当たりの平均乗車人数	5.11 人
一日当たりの平均乗車人数	13.15 人
おでかけ運航日数	12 日

※ワゴン車は運転手・コミュニケーションワーカー除く8人乗り



食事で繋がるみんなの居場所～いって きますからおかえりまで～

NPO法人
子育て応援ワクワクピース

大分県大分市

取組のかたち

食事つき居場所づくり、食事つき学習支援、
訪問型支援、季節のイベント

届けたい人たち

子育て中のパパ・ママ、ひとり親、
生きづらさを抱えたこどもや大人、高齢者

私たちの軌跡

乳幼児を育てるママへの講座やイベント・地域食堂・放課後や長期休暇中のこどもの居場所・食事つき学習支援・ひとり親や生活困窮世帯への食事提供・子育て中のママへの育児相談・わさだフードバンク・リサイクル衣料や学用品等の無償譲渡などを実施してきた。

私たちの新たな取組

赤ちゃんから高齢者まで誰もが利用できる居場所で、朝食・昼食・夕食を提供。食事を共にしながらおしゃべりの中で困り事や悩み事を聞き、健康状態や生活状況を把握。小学校に隣接する居場所で、こどもの朝の居場所をつくり朝食をとって登校できるようにし、登校渋りや不登校の改善につなげる。ひとり親家庭や生活困窮世帯などが困ったときにいつでも利用できるように地域のフードバンクを常設。災害時の備蓄用倉庫としての機能を担う。毎月アンケート調査の集計をし翌月の支援に繋げる。アウトリーチ支援も行ない、ひきこもりの方々が社会に繋がるきっかけをつくる。

この取組が生まれた“はじまりの物語”

放課後や長期休暇中のこどもの居場所を運営していると、学校給食のみがバランスの取れた食事であることこどもたちに気づいた。コロナ禍での臨時休校で学校給食がストップしたときに居場所も食事もなくなったこどもたちが痩せていく姿をみて、「食」で繋がる居場所づくりをしようと考えた。しかしながら私たちの活動拠点まで来ることができない方々(交通手段がない・病気で外出ができない等)の支援をするためにはアウトリーチ型支援を推進する必要があると考えてこの取り組みを実施した。

成功のカギとなった工夫とひらめき

継続して「食」を核にした活動をすることで「ワクワクピースに来ればいつでも食事ができる」というイメージつき、「食」が入り口となり相談に来るきっかけづくりとなった。
活動拠点まで来れない方へは、アウトリーチ支援につなげるために食事や食材を届けることを提案することで支援が必要な方との信頼関係を築きやすくなった。
SSW(スクールソーシャルワーカー)と連携を図ることで、学校で気になる支援の必要な家庭と繋がりを持つことができ、継続的に食事の支援と学習支援と生活支援をしている。

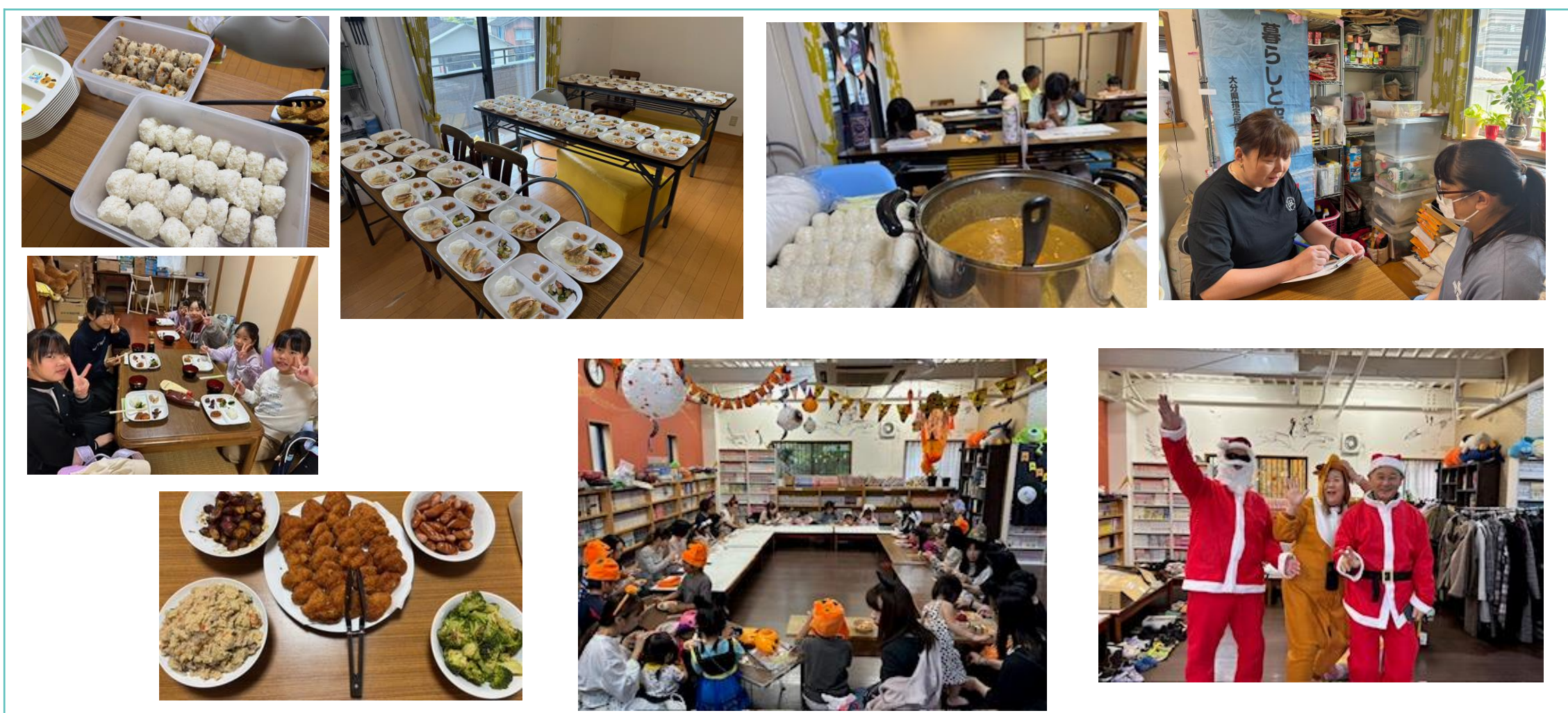
取組の成果

朝ごはんを友達と一緒に食べることでお腹も心も満たされて登校できることで登校渋りの改善にも繋がった。
大分県社協と大分市社協との連携やSSWとの連携により、緊急支援や継続支援に繋ぐことが可能となり居住支援法人との連携もあるので専門的なアドバイスを受けることができることが利用者への安心に繋がっている。
今後はアウトリーチ支援の内容を増やして活動していく予定である。

団体概要

団体名	NPO法人 子育て応援ワクワクピース
代表者	漆間 文代
設立年月	2009年10月
住所	大分県大分市大字木上77-1(事務局)
ホームページ	http://www.instagram.com/wakuwaku.peace/
メッセージ	大分市植田地区を拠点に赤ちゃんから高齢者までの誰でも来れる居場所づくりをしています。困ったときはいつでもおいで！困ったときはお互い様！を合言葉に活動しています。

取組の様子





取組のかたち

学びを通じて、ご近所さんと出会う場
(ご近所塾・ご近所月報)
ご近所子ども塾

届けたい人たち

困り感をかかえる子どもたち
語り合える友人がほしい大人たち

私たちの軌跡

私たちは、宮崎県で暮らす人々に向けて、次の世代を担う子どもたちと、子どもたちを育てる家庭や地域に目を向けた活動を行ってきた。「親が変われば子どもが変わる」「地域の子どものは地域で育てる」という思いを大切にしながら、調査や研究を重ねている。その成果をもとに、子育てや家庭教育の支援、青少年の健全な成長を支える取組、地域づくりなどの事業を行い、地域社会に貢献することを目指している。具体的には、困り感のある子どものための学習支援や体験活動、教員をめざす大学生のための学習指導の場の提供、また、保護者のための相談活動などがある。

私たちの新たな取組

地域の方々と一緒に①「ご近所塾」をひらき、②人と人がつながり続けられるコミュニティのプラットフォームサイト「ご近所月報」を開設、③子どもたちのための学習支援「ご近所子ども塾」を行った。「ご近所塾」では、地域にいる面白い大人たちに「ご近所先生」になってもらい、それぞれの「好き」や得意なことを深める講座を一緒に企画した。そのつながりを育てていくための場として②のプラットフォームを用意した。子どもたちは「ご近所子ども塾」を通して、学習支援を受けながら、多様で面白い生き方にふれ、将来の選択肢を広げていった。

一人ひとりの想いが動き出す場に

ご近所塾を実施するにあたり業務協力を依頼した2名が、主体的に居場所づくりについて考えるようになった。一人は、塾の記録記事を担当したライターで、塾の終了後に毎回ご近所先生と雑談をするようになった。もう一人は子ども塾に支援で参加した個人学習指導の指導員で、哲学対話のためのファシリテーターを招いてくれたり、自身の大学時代の留学や研究発表を行った。二人とも、今後は一緒に子どもたちや大人にとっての自由な学びの場と居場所づくりを行いたいと、継続的に運営にも関わってくれることになった。

取組の成果

「ご近所子ども塾」は、全17回行った。9名の子どもたちが5ヶ月間毎週通った。支援スタッフとして18名の登録があり、シフト制で支援にあたった。「ご近所塾」は全5回開催し、ご近所先生は5名、参加者は延40名となった。「ご近所月報」では、イベントのお知らせや塾の様子、ご近所先生の紹介ページなどを充実させ、32本の記事を公開した。成果として、子どもたちが日々、塾や習い事に疲れている中で、教室をリラックスできる場と感じるようになった。大人たちも、塾がきっかけで、共通の趣味をもつ人が連絡先を交換したり、意外な一面を知ったりと交流が深まった。

団体概要

団体名	NPO法人 家庭・青少年教育ネットワーク
代表者	池本 要
設立年月	2009年9月
住所	宮崎県宮崎市大塚大台東1丁目22番地2
ホームページ	https://gokinjosun.com/
メッセージ	地域での学びを通じて、出会い、つながり、助け合う、新しい形のご近所づきあいを育てていきます。

取組の様子



【ご近所塾の告知チラシ(全5回)】



【ご近所子ども塾、塾生募集チラシ】



【ご近所塾の様子】



【ご近所子ども塾にて、哲学対話の様子】



日常生活動線上にある野菜の直売所を 活かしたつながりづくり

NPO法人
ふくろうの会

宮崎県都城市、三股町

取組のかたち

交流の場の提供
居場所づくり
食を通じたつながりづくり

届けたい人たち

子供から高齢者まで、
直売所を利用する幅広い世代の地域住民

私たちの軌跡

地元の野菜直売や地場産品の販売など、地域住民が集い交流する居場所づくりを行っている。また、季節ごとのマルシェ、音楽会、ワークショップなどの開催により地域コミュニティの活性化を図る活動を行っている。これまでも、地域行事の会場としても使用していた関係から、地域の公民館長や民生委員児童委員等と連携して、一人暮らし高齢者やこもりがちな高齢者の出番づくりを考え、声掛けなどを協働している。

私たちの新たな取組

地域には野菜づくりをおこなっている一人暮らしの高齢者や、昔ながらの野菜の加工(梅干しや漬物等)技術を持っている一人暮らし高齢者が多くいる。一方で、一人暮らしの高齢者同士が交流する機会が少なくなっており、地域内での「つながり」が希薄になりつつある。そこで、そのような高齢者同士を団体が懸け橋となることで、商品開発などを行い地域がつながる「粗食カフェ」という地元食堂を運営する。また、多様な人が集える「粗食カフェ」を展開しながら、そこに集まる地域住民が、生活の困りごとや生活の楽しみを伝えられる場づくりを行っていく。

最初の一步はこんなことから

これまで、本団体では野菜の直売所を通して、地域コミュニティの活性化をおこなっていた。そういった取組も広がり、現在では年間63,000人が来店する場所になっている。しかしながら、本団体が活動する都城市では、高齢者同士のつながりの希薄化、世代を超えたつながりの希薄化が、年々進んでいるように感じている。そこで、来店する人々が買い物目的だけではなく、気がついたら繋がっていたというようなモデルを構築するべく、野菜や惣菜を入り口とした多様な立場の人たちがつながる居場所づくりができないかと思ったことが、取組を始めようと思ったきっかけである。

取組の成果

「粗食カフェ」のイベントなどを通じて、たくさんの方々をつながることができた。同じ趣味の人達と「料理」、「編み物」「お菓子づくり」などの共通の話題で盛り上がっていた参加者が、次回のイベントにも手伝いや参加の申し出があるなど、積極的な声を参加者からもらった。また、イベント開催にあたり、地域に協力者がたくさんいることに気が付けたことが、新たな発見であった。来年度以降は、カフェや加工品を販売していくことで収益化を進め、活動資金の一部を自走化できる見込みである。

団体概要

団体名	NPO法人 ふくろうの会
代表者	松田 時夫
設立年月	2011年3月
住所	宮崎県都城市南横市町1049-2
ホームページ	なし
メッセージ	地元の季節野菜・加工品・手作り商品などを扱う野菜市場として活動、イベント時の販売・交流スペースとしての利用もあり、地域の人々が集い交流する場所づくりをしています。

取組の様子

◆ 粗食カフェのチラシ



可愛い展示も
あります！



手作りの小物
なども販売！



15:00~ドクター
八百屋がやってくる！



16:00~小学生の
ウクレレ演奏会♪

◆ 粗食カフェに集まった地域住民の様子





取組のかたち

カフェを拠点とした
多様な関係者とのつながりづくり
地域づくり

届けたい人たち

学校や社会に居場所を感じにくい
子ども・若者・高齢者
地域と関わりたいがきっかけがない住民

私たちの軌跡

私たちは、宮崎県日向市を拠点に、子ども・家庭・地域が孤立しないための居場所づくりに取り組んでいる。子ども食堂や学習支援、多世代交流、地域イベントなどを通じて、年齢や立場を越えて人が関わる機会を重ねている。

活動を進める中で、支援が一時的なものに終わりやすいという課題を感じ、日常の中で自然に人と人がつながり続ける拠点の必要性を強く意識するようになった。

私たちの新たな取組

これまでの活動を土台に、新たにカフェ「BASE883+」を拠点とした地域共生の取組を進めている。BASE883+は、支援を目的に来る場所ではなく、コーヒーを飲む、誰かと話す、ただ過ごすといった日常の延長線上にある居場所として運営している。

その中で、子ども食堂や学習支援、体験型イベント、多世代交流を組み合わせることで、子どもや保護者、高校生、地域住民が自然に関わり合う仕組みを構築している。日常的に人が集い、役割や関係が少しずつ育っていくことで、支援が特別なものではなく、地域に根付く形となることを目指している。

共に進む仲間を作るための工夫

私たちは、連携・協働において「できないことを補う」のではなく、「それぞれの強みを活かし合う」関係づくりを意識した。社会福祉協議会とは地域課題や支援ニーズの共有を行い、地域のNPO法人や市民団体とは企画や運営を共に考える形で協働している。

また、高校生や地域住民が無理なく関わられるよう、関与の深さや役割を固定せず、参加の選択肢を広げた。その結果、新しい人や取組が自然に生まれ、初めて訪れる人が増えるきっかけにつながっている。

取組の成果

本モデル調査事業では、カフェ「BASE883+」を拠点に、目的を限定しない居場所が新たな接点を生み出すかを検証した。社会福祉協議会や地域のNPO法人、市民団体と連携し、子ども食堂や学習支援、カフェ利用、交流イベントを組み合わせ実施した。その結果、支援活動と接点のなかった子育て世帯や地域住民、高校生などが新たに参加し、モデル期間中に延べ3000名が拠点を利用した。初来訪者と継続利用者の双方が確認され、日常的な居場所として機能する可能性が示された。また、地域住民や高校生が運営に関わる仕組みを試行し、協働による居場所運営の有効性を確認した。

団体概要

団体名	特定非営利活動法人フェリーチェ
代表者	河内 潔
設立年月	2023年9月
住所	宮崎県日向市亀崎2丁目32番地
ホームページ	https://npofelice.com/
メッセージ	私たちは『あつまる、つながる、プラスになる』をコンセプトとして人と人がつながり、そのつながりが地域を少しずつ温かくしていく未来を描いています。この取組が、誰かの「ここに来てよかった」につながる様に、これからも育てていきたいと考えています。

取組の様子



BASE883+で生まれた活動



カフェから広がる街の循環



パーキンソン病友の会
同じ病気と向き合う仲間や家族、支援者がつながり、安心して語り合い支え合える居場所



子ども食堂LAB
子どもによる子供の為の子ども食堂をコンセプトに高校生考案の子ども食堂



おしゃべり弁当サロン
地域の人々が集まりお弁当を食べながらみんなで、食べて笑って自然とつながる場所



栄養相談の日
食べることは生きること。栄養と食生活について、栄養士さんとじっくりお話することができます



匠LAB (たくみラボ)
男性だけの秘密基地...! 木工など、自分たちのやりたいことをやっています



イタリアン料理教室
多世代交流 × 子どもの成長支援 × 地域の絆づくり
料理の香りは、どんな人の心もやわらかくします。



「高齢者等終身サポート」を具現化し、 支援体制の構築を図る事業

一般社団法人
日本成年後見サポーター協会

鹿児島県鹿児島市、鹿屋市、
霧島市、薩摩川内市及び周辺
地区

取組のかたち

地域における包括的支援の提供

届けたい人たち

中高年者

私たちの軌跡

主な活動として成年後見制度の普及に関する事業、市民後見人の養成・指導に関する事業、市民後見バンクの運営に関する事業、後見受任に関する事業を行っている。
福祉医療機構の助成を受け各地でイベントを開催し、県精神障害者家族会連合会からの委託で研修会を実施。また、「成年後見サポーター」養成を開始。県内各地で養成講座を開催し資格取得者数100人を超える。資格者向けの更新時講習を各地で開催し、好評を得ている。令和6年年賀寄付金の助成を受け、離島3か所で成年後見サポーター養成、普及活動を行う。

私たちの新たな取組

高齢化の進展や核家族化に伴い、高齢単独世帯や高齢者夫婦のみの世帯が増加している中で、家族による支援を受けることが困難な高齢者等を対象に、入院・施設等の入所時の身元保証、日常生活支援、死後の対応等のサービスを行う「高齢者等終身サポート事業」を行う事業者などの増加が予想される中で、誰でも安心してこの制度を利用できるよう鹿児島県内で同事業を行う業者等のネットワーク化、組織化を図り、健全性を担保する。

この取組が生まれた“はじまりの物語”

この事業は、死後のサービスを含み、契約期間が長期であること等の特徴があることから、利用者保護の必要性が高く、事業者の適正な事業運営を確保し、事業の健全な発展を推進するとともに、利用者の安心等を確保することが何よりも重要で、県内各地で活動する事業者のネットワーク(組織化)を進める必要性を痛感し、本事業を開始した。

成功のカギとなった工夫とひらめき

相談できる場づくりに心掛けた。

- 当事業に関連性のある企業・団体の発掘。司法書士会、行政書士会、弁護士会、宅建協会、葬儀社、墓地管理者、消費者センター、介護関係施設・NPO等と連携した。
- 関連NPO法人を通じた高齢者支援の事業所の発掘。
- 高齢者等に解り易いセミナーの開催により、相談者が増加。
- 情報連絡網の整備により、情報の共有化、可視化が可能になった。

取組の成果

高齢者等終身サポート事業については、将来にわたる身元保証サービスであることや死後事務サービスを含むものであり、契約が長期にわたること、判断能力の低下した高齢者を対象にしていることから、トラブルも多く、利用者保護の必要性も高いことから、本事業実施により、事業者も高齢者も利用の判断となる目安を習得できたと思慮する。
 今後、事業者については、協会加入事業者数の増加に努め、利用者にとっては、気軽に相談できる窓口の体制確立に努めたい。(現在、協会加盟事業者は12先)

団体概要

団体名	一般社団法人 日本成年後見サポーター協会
代表者	小浜 洋一
設立年月	2016年4月
住所	鹿児島県鹿児島市新屋敷町16番公社ビル215号協働オフィス
ホームページ	http://kouken-Kagoshima.org
メッセージ	この法人は成年後見制度の普及と市民後見推進事業に関する活動を広く全国で行っています。

取組の様子

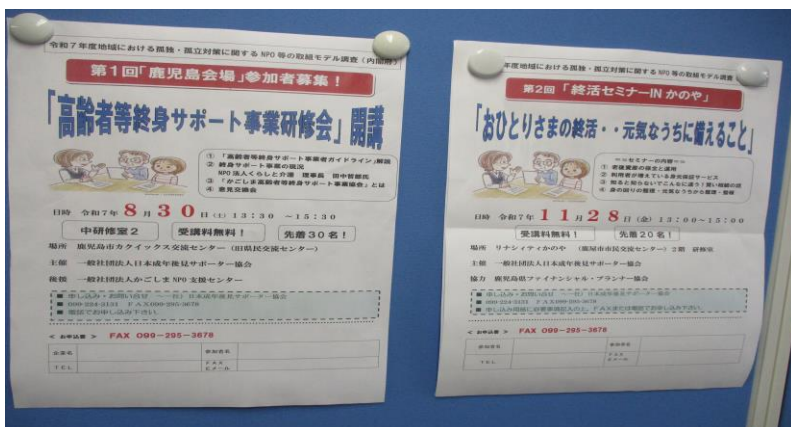
◆ 事業者向けセミナーの様子



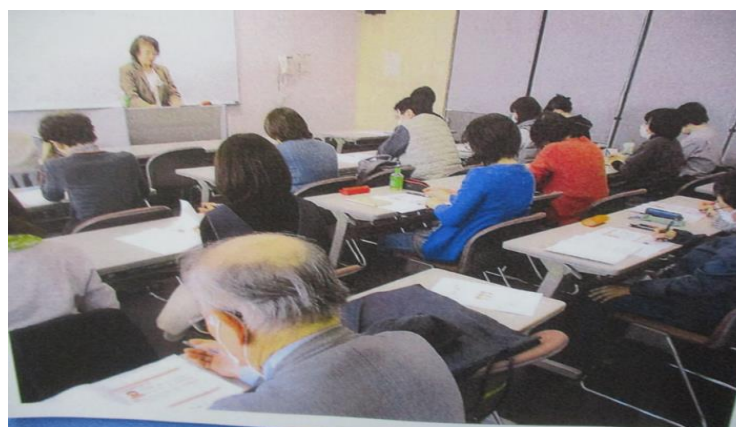
◆ 高齢者向けセミナー(老後資産)



◆ セミナーの案内チラシ



◆ 高齢者向けセミナー(身元保証)





グランドゴルフ等を通じた子ども・親・ 高齢者等多世代交流事業

特定非営利活動法人
かごしまヤングケアラー支援
ネットワーク

鹿児島県長島町、湧水町、
曾於市、出水市

取組のかたち

交流の場づくり

届けたい人たち

高齢者のみでなく、地域活動を行っている団体
行政機関、教育機関

私たちの軌跡

離島を中心に地元の高齢者と子どもたちのグランドゴルフ等ふれあいスポーツ活動を毎年実施しているほか、ひとり親世帯や貧困世帯の子どもを対象に毎年、夏と冬に学習支援「島っ子未来塾」を開催しており、好評を得ている。ヤングケアラー等の孤独・孤立の支援体制構築のため、福祉・障害児支援、食糧、メンタル、学習支援、生活支援等、分野別のボランティアを募集して、ネットワーク化を図っている。
令和6年度内閣府地域における孤独・孤立対策に関するNPO等の取り組みモデル調査研究事業を受託した実績がある。

私たちの新たな取組

今年度は、鹿児島県でも僻地と言われる集落の高齢者・子ども・親・多世代を対象に、誰でも手軽にできるグランドゴルフと「なんこ」でつながりの形成を推し進めてきた。対象地区の長島町役場、湧水町、末吉町、出水市の行政の支援、社会福祉協議会の協力、地域おこし・子育て支援のNPO法人等多方面からの協力が得られ、参加者数も定員を上回る盛況であった。

この取組が生まれた“はじまりの物語”

世代をこえた交流を生み出す仕掛けとして、対象地区の地域おこし、子育て支援、福祉分野で活動するNPO法人と連携するため、県内最大の中間支援組織であるかごしまNPO支援センターを通じて協力を依頼した。同センターのコーディネートにより、分野ごとに強みを持つ団体から以下のような支援を受けた。介護分野では独居高齢者への声かけ支援、障害分野では引きこもり状態にある障害者の外出促進、子ども分野では引きこもりや不登校の子どもが地域に出るきっかけづくりを行った。これらの分野別支援が連携することで、世代間交流の創出につながり、本活動は成功を収めた。

成功のカギとなった工夫とひらめき

スポーツ・芸術等を通じたつながりづくり
グランドゴルフという誰でも気軽に参加でき、ただ玉をスティックで打ち、ホールに入る回数を競うもので、仲間づくりには最適なスポーツである。健康増進にも役立ち、女性も積極的に参加した。人々がつながりをもちながら安心して生活を送ることのできる地域共生社会を実現する手段としては最適であったと自負する。また別に今回企画した、「なんこ」は、昔から鹿児島島の過疎地で、仲間づくりに寄与してきた遊びで、大きな道具や場所も必要なく、相手さえおれば、どこでも誰とでもでき、つながりづくりには最適であった。

取組の成果

今年度は、開催地の地域おこしのNPO法人との連携と行政機関への働きかけを強めた結果、予想を上回る参加者があり、地域住民と一体となった活動ができた。

特に 宮崎、熊本両県との県境にあり、過疎化が進んでいる湧水町では、湧水町の教育委員会、生涯学習課等大きな支援・協力をいただき、広報課からは県内報道機関への周知もしていただき、イベント開催当日、NHK放送局と南日本新聞社の取材があり、NHKでは地元のニュース番組で、新聞では正月あけの新聞で活動が紹介され、大きな反響をいただき、活動の後押しになった。

団体概要

団体名	特定非営利活動法人かごしまヤングケアラー支援ネットワーク
代表者	山方 博文
設立年月	2011年2月
住所	鹿児島県鹿児島市新屋敷町16番公社ビル215号挙動オフィス
ホームページ	https://k-ycsn.org/
メッセージ	いかに地域の行政やNPO法人など民間支援組織と連携できるかがカギとなる。日常の活動の中で連携の輪を広げ、支援ネットワークづくりに尽力し、強力な支援体制を構築することが鍵になると思う。

取組の様子





取組のかたち

介護予防や交流の場、集いの場の提供
地域のこまりごとの解決
支えあいのための学びの場
地域のネットワークの構築

届けたい人たち

子ども・若者・高齢者・地域住民
介護や育児をしている方

私たちの軌跡

当法人は、特別養護老人ホーム・短期入所生活介護・通所介護・居宅介護支援事業所の介護保険サービス事業を主に地域に根差し、展開している。福祉サービスを必要とする者が、心身共に健やかに育成され、又は社会、経済、文化その他あらゆる分野の活動に参加する機会を与えられると共に、その環境、年齢及び心身の状況に応じ、地域において必要なサービスを総合的に提供できるように活動している。

私たちの新たな取組

以下の10の取組を実施した。①地域の高齢者の通いの場・介護予防教室の開催、②学びや情報交換の場の見守りサポーター養成講座、③地域の方や実際に介護されている方への介護技術勉強会の開催、④介護保険サービスの利用者様の交流とリラクゼーション体験の場としてフリーマーケットの開催、⑤子どもの居場所と連携したキャリア形成プログラムの受け入れ、⑥地域へ出向相談窓口の開設、⑦買物・移動支援、⑧ICTを利用した見守り支援事業の実施で居住地の選択肢を増やす、⑨地域イベント企画、⑩子ども食堂の開催。

誰もが「行ってみよう」と思える場を

地域には子どもから高齢者までいろいろな方々が住んでいる。困りごとも様々。様々な活動・企画やイベントを開催し、「自分も参加できる」「参加したい」を創造し、次の楽しみにつながるように心がけている。特別養護老人ホームや通所介護(デイサービス)にてイベントを開催することも、地域の方たちの福祉サービスへの学びや親しみやすさ、いつでも相談できる関係づくりに活かしている。近隣の子もたちに作成してもらい風鈴を苑庭に飾ったふうりんまつりや、年齢問わず特別養護老人ホームおきなわ長寿苑の壁に絵を描く企画や癒しがテーマのフリーマーケットでは苑のサービスで取り入れているリラクゼーション体験を実施している。

取組の成果

「次はいつ開催しますか」「自分もやってみようかな」のお声かけをいただく。また、「ここで初めて挑戦できたことをきっかけにいろいろ始めてみたい」と次のステップに活動を広げている若い親子の方や地域の学生、主婦の方もいる。地域の方自身の強みや得意、趣味など負担のない日常生活からできることが他者の「助かる」「楽しみ」へつながり、地域の方の生きがいづくりから社会貢献活動につながっている。

団体概要

団体名	社会福祉法人 おきなわ長寿会
代表者	与那城 宗道
設立年月	1999年4月
住所	沖縄県沖縄市字登川1403番地
ホームページ	https://www.chojyuen.com/
メッセージ	地域に開かれた施設として、健康増進と生きがい生活を通して、高齢者の健康、福祉の向上に努める。

取組の様子



買い物支援

社会福祉法人 おきなわ長寿会
介護者（家族）等リフレッシュ事業

介護する人、うける人
お互いが「楽」になる技術
体験し学ぶ教室

家族の「負担」を「楽楽」に
家族介護技術勉強会
「イスからの立ち上がり介助」

11.8 土

時間:10:00~11:30 場所:おきなわ長寿会 研修室
定員:15名 受講料:無料

講師:合同会社まさむね
代表社員 城間雅己
他職員 2人

問い合わせ先

地域貢献戦略室
住所:沖縄市字登川1402番地
電話:098-929-3919
e-mail: chojyu-2@theia.ocn.ne.jp
Instagram: @okiproduct

講師歴:
沖縄県社会福祉協議会
いきいき長寿大学校介護技術等
介護従事者・福祉系高等学校等を
対象とした研修等。
高齢者施設・障がい者施設のアド
バイザー等。児童から高齢者まで
障がいの種類を問わず全てのケア
を応援します。

家族介護技術勉強会



ふうりんまつり



見守りサポーター勉強会



フリーマーケット～演舞～



壁画ギャラリー



ちよーでーぐわあ教室



食等の支援をツールとして地域プラットフォーム形成プロジェクト

特定非営利活動法人
まくとうー

沖縄県うるま市、恩納村

取組のかたち

食材や食品、生活必需品等をツールとしてお困りの方々や世帯に対し、地域や関係機関と共に支え育み、一人も取りこぼさない、地域プラットフォーム形成事業

届けたい人たち

子ども、若者、ひとり親世帯
独居高齢者、地域で孤立しがちな世帯など

私たちの軌跡

当法人では、子ども達の居場所形成の為、子ども食堂の開催、学童クラブの運営、ひとり親への支援のためのフードパントリー、地域で子ども達やお困りの世帯等を支援している団体やグループ、チームなどへのフードバンク事業、地域自治会などを通して独居高齢者などへの食等の支援などを平時から行っている。

私たちの新たな取組

食等の支援を通して、地域で顔の見える関係の構築、行政をはじめとした社会福祉協議会や母子寡婦会、そして地域を支える地域自治会などの方々、また教育機関ではスクールソーシャルワーカーや子ども支援員、地域の民生委員児童委員の方々との、孤独孤立対策等の意識向上と、顔の見える関係構築に力を注ぎ、今年度行政の関係担当課、こども政策、貧困対策、子育て包括支援、市民協働政策課、保護課、福祉課など縦割り行政を一つにして話し合いの場を形成する事が出来た。
以降定期的な意見交換や情報共有を行うべく定期会合の合意がなされ、以降話し合いを継続していく。

この取組が生まれた“はじまりの物語”

沖縄県の貧困率は、全国第1位29.3%。県の特性や置かれている環境などが貧困率を高めているという背景が見られる。沖縄県では子ども3人に1人が貧困と言われている。そのような中沖縄県の子ども達におなか一杯ご飯を食べてもらいたいとの思いから、子ども食堂などに居場所を運営、その中でひとり親支援が必要となり、地域自治会と共に、更には地域の独居高齢者が困っている実情などを伺い、食支援を行う事は有効な地域福祉の活動であるとの思いから開始、地域のつながりを持ち連携し継続できる活動にすることがこれからも必要と考え活動を継続中である。

成功のカギとなった工夫とひらめき

一番は農林水産省の政府備蓄米や県内の食品等支援団体とのつながりが出来、少ないながらも食品等の安定した入荷が見込め、そのお米等の財源を有効に活用するために、様々な支援が徐々に出てきたことなどが、食等をツールとしての支援活動の一つの成功例だと思っている。
今後はさらに食品等の安定した確保のため、取り扱い等にも配慮し、保管の安全性や取り扱いの安全安心な運用、そして本当にお困りの世帯や孤独孤立対策に有効活用ができるように活動を行っていく。

取組の成果

食品取扱量が今年度20t程度を見込め、更には次年度は30t程度を見込む計画とし、以降の事業計画に盛り込みたい。
受益者数も今年度以上にいきわたる手法、活動地域も徐々に増やし地区のモデル事業を目指す。
また、活動者養成講座なども今回開催でき、延べ人数200人を超える活動者が生まれた。次年度はさらに300人以上の活動者を確保できるように努力する。

団体概要

団体名	特定非営利活動法人 まくとぅー
代表者	市原 信行
設立年月	2021年9月
住所	沖縄県うるま市昆布1832-829
ホームページ	https://makutoo.jimdosite.com/
メッセージ	私たちは、この事業を通じ様々な方々との繋がりと連携を行う事ができました。また孤独孤立等含む地域ボランティア活動の意識向上と活動者を増やす取り組みもできました。今後はより有効に地域と共に活動を行い、更に他地域へもモデル事業となるべく継続した活動を行っていきます。

取組の様子





取組のかたち

現役世代の中高年男性の孤独・孤立予防を
企業側からアプローチする

届けたい人たち

中高年男性を雇用する企業や経営者
→企業に雇用される中高年男性

私たちの軌跡

私たちは産業カウンセラーを中心とするカウンセラー集団であることから、「心理相談事業」「心理研修事業」「心理啓発事業」の3事業を行っている。特に、「孤独を感じることから生じるメンタルヘルス不全を未然に防ぐ」ことを目的としての取り組みを行っている。
内閣府及び大阪府の「孤独・孤立対策官民連携プラットフォーム」に所属し、各種イベントへの参加や勉強会への出席を行っている。
また令和5年度より中高年男性の孤独・孤立対策として「男のセカンドキャリア塾」を実施している。

私たちの新たな取組

私たちは孤独・孤立リスクの高いとされている「中高年男性」を対象として、孤独・孤立対策を行っている。本来のターゲットである「未だ孤独・孤立していない」現役世代の中高年男性は、将来のリスクへの自覚が乏しく、また仕事に追われて対策を取るだけの時間的・体力的余裕がないものと考えられた。
そこで今回の取り組みでは、企業が参加できるイベントを開催し、中高年男性の孤独・孤立リスクやその弊害などについて周知し、社内において「中高年男性の孤独・孤立リスク」の周知と対策への取り組みに役立てて頂くための取り組みを行うこととした。

この取組が生まれた“はじまりの物語”

私たちは過去2年間、中高年男性対象の「男のセカンドキャリア塾」ワークショップを実施し、一定の成果が得られたものと考えられた。しかし本来の目的である「自覚・積極性に乏しい中高年男性」という「メインターゲット」への周知が困難であることが課題となっていた。
そこで今回は、中高年男性を雇用する企業や経営者を対象として、中高年男性の孤独・孤立リスクやその弊害及び対策などを周知し、体験により実感して頂いたうえで、社内にて「中高年男性の孤独・孤立対策」を講じる一助として頂けることを目的とした。

取組の成果

孤独・孤立予防に精通する追手門学院大学教授浦光博先生による、企業向けオンラインセミナーを実施したところ、大手企業の人事・経営企画ご担当者等、計36名の出席を得ることができた。
事後のアンケートでは、中高年男性の孤独・孤立対策を企業で行うことに対する意義を感じる人は80%以上あるものの、障壁として「従業員の参加意欲」が課題となっていた。
「孤独・孤立対策」を企業で行うことに対する普及については、大手PR会社を利用したことにより、計75媒体への転載が行われ、広く周知できたものと考えられた。

団体概要

団体名	NPO法人 SKY
代表者	藤田 公恵
設立年月	2018年6月
住所	大阪市生野区新今里3丁目6番14号
ホームページ	https://esukeiwai.jimdofree.com/
メッセージ	孤独や孤立を感じることからのメンタルヘルス不調を未然に防ぐ！

取組の様子

企業の人事・労務・経営企画部門向け
参加費無料

人的資本経営支援セミナー 孤独・孤立対策が 企業価値を高める オンラインセミナー

11.12水
13:00 - 14:30

こんなお悩みありませんか？

- ☑ ストレスチェックの数値低下
- ☑ 定年後の道筋が不透明
- ☑ 社外交流のきっかけ不足

令和7年度地域における孤独・孤立対策に関する
NPO等の取組モデル調査採択事業

講義内容

- 孤独・孤立が職場に与える影響とは？
- 定年後前後支援と人的資本経営の接点
- SKYの実践事例と企業連携の可能性
- SDGs・DEI施策への貢献

講師
浦 光博
追手門学院大学 教授

お申込みはこちらから
Peatixページより「チケットを申し込む」からお申込みください
<https://kodokukotrirtutaisaku.peatix.com/>

お問い合わせ
NPO法人 SKY
MAIL esukeiwai.info@gmail.com
WEB <https://esukeiwai.jimdofree.com/>

SKY

男のセカンドキャリア塾

孤独・孤立対策の実践モデル

NPO法人SKY



取組のかたち

オンラインと対面のハイブリッド支援
ろう・難聴児の居場所づくり
当事者ロールモデルとの連携

届けたい人たち

全国の学齢期のろう・難聴児
孤立を感じている保護者
地域の支援者・教育関係者

私たちの軌跡

ろう・難聴のこどもたちは、家庭や学校で「会話に入れない」「気持ちが伝わらない」という経験を重ね、社会的に孤立しやすい状況にある。そうした中で、私たちは聞こえない・聞こえにくいこどもたちが自分らしく学べる環境をつくるため、対話と学びの教室を運営している。聞こえる人・聞こえない人が共に活動する組織として、「わかる・つながる」喜びを届け、こどもたちが将来的にも孤立しないための「生きる力」を育む活動を続けている。

私たちの新たな取組

全国どこに住んでいても参加できる「オンライン個別授業」と深い絆を育む「対面交流(キャンプや出張授業)」を組み合わせたハイブリッド型の居場所づくりを実施。週2回のオンライン授業では、ろう・難聴の大学生や社会人が講師となり、こどもたちのロールモデルとして伴走。さらに、四半期に1回のリアルな交流の場を設けることで、バーチャルとリアルの両面からこどもを取り巻く「孤立しない環境」の構築を目指した。

成功のカギとなった工夫とひらめき

“オンライン×リアル”で心の距離を縮める最大の工夫は、日常的な学習支援を行う「オンライン」と体験を共有する「リアル」を循環させたことである。9月に実施したサマーキャンプには全国から44名が参加し、普段画面越しに会っていた仲間と直接触れ合うことで、こどもたちの関係性が劇的に深まった。また、講師自身がろう・難聴当事者であることも重要なポイントである。「自分と同じ」大人との出会いがこどもたちの自己肯定感を高め、「将来も社会とつながっていける」という希望を生み出している。このハイブリッドな支援体制は、地理的な制約を超えて「ひとりぼっち」を防ぐための大きなカギとなった。

取組の成果

月間約200回のオンライン授業を継続的に提供し、約60名のこどもたちに「わかる・伝わる」居場所を届けることができた。参加した保護者からは「こどもの世界が広がりました」との声が寄せられている。また、この実践データを基にこども家庭庁や自治体への政策提言を行い、制度の狭間にある聴覚障害児支援の公的制度化(報酬改定等)に向けた動きを加速させることができた。今後は、このモデルを全国に広げ、経済的な壁なく誰もが支援を受けられる社会の実現を目指していく。

団体概要

団体名	NPO法人Silent Voice
代表者	尾中 友哉(代表理事)
設立年月	2017年1月
住所	大阪府大阪市中央区安堂寺町1丁目3-12 大阪谷町ビル4階
ホームページ	https://silentvoice.org
メッセージ	ろう・難聴児の「孤立」をなくし、誰もが自分らしく挑戦できる社会を一緒につくりましょう！

取組の様子



「全国から仲間が集まったサマーキャンプ。初めて会ったとは思えないほど会話が弾みました。」



「オンライン授業で、お家の中にあるぬいぐるみを見せあうこどもたち」



サポートに繋がれない不登校家庭を オンラインで支える実証事業

特定非営利活動法人
多様な学びプロジェクト

全国

取組のかたち

自治体のネットワークを用いて、
不登校家庭にオンラインサポートを供給
支援者のスキルアップも行う

届けたい人たち

サポートに繋がれない不登校家庭(保護者)
不登校家庭を支える支援者

私たちの軌跡

「すべての子どもが自分らしく育ち、安心と幸せを感じられる」社会を目指し「多様な学び」をみんなの当たり前にするための活動を行っている。具体的には、不登校の子どもが平日昼間に安心して過ごせる居場所の検索サイト「街のとまり木」の運営、不登校保護者や支援者・教員向けのオンライン学びコミュニティ「とまり木オンライン」の運営、子ども向けのオンラインコミュニティ「フリーバードキッズ」の運営、調査・政策提言活動「学校への依頼文フォーマット」「不登校のこどもの育ちと学びを支える当事者実態ニーズ全国調査」など多岐にわたる活動を行っている。

私たちの新たな取組

地方では、地理的な障壁や経済的な障壁等から、リアルでのサポートに繋がれない不登校親子が存在する。そういった家庭に対してオンラインサポートサービスを活用し、子どもへの接し方の講座や、親同士での交流を行うことによって、家庭内のコミュニケーションの改善につなげていく。また、フリースクール等の運営者や教育支援センタースタッフ、教員、スクールソーシャルワーカーらに対しても講座を提供し、どのように子どもを支えていくかについてのスキルアップを行い、地域の支援力を底上げする。今回は長野県諏訪市で「とまり木オンライン」によるサポートの実証事業を展開した。

この取組が生まれた“はじまりの物語”

当団体ではオンラインサポート事業「とまり木オンライン」をコロナ禍以前より行っていたが、対象者へのアクセス方法がSNSやHPのみであり、孤立家庭へのリーチ方法が限られていた。また、運営に必要な月額料金による家庭への負担も高く、多くの孤立家庭が利用しやすい状況ではなかった。そこで自治体と連携し、自治体の教育委員会に広報を担っていただくことで、より多くの孤立家庭にリーチできるのではないかと考えた。また、自治体に費用をご負担いただくことで、より多くの家庭に必要なサポートを届けることを目指した。

取組の成果

想像以上に保護者へのリーチが難しく、学校のシステム等やフリースクールから流していただく電子チラシでは周知に難航した。紙チラシなども作成・配布いただき、ようやく対象保護者にも支援が届き始めた。一方で、支援者のニーズは高く、「当事者の話を聞きたい、知識を得たい、支援者同士のつながりがほしい、教員向け研修に使いたい」等の声が集まった。ヒアリング調査によって、支援者自身がサイトの利用方法がわかる説明会を受けると、保護者にも適切に伝えられることがわかった。オンラインサービス自体への要望も見えてきたので、引き続きサービスの改善に取り組み、他の自治体の孤立家庭にも支援を届けて行きたい。

団体概要

団体名	特定非営利活動法人多様な学びプロジェクト
代表者	生駒 知里
設立年月	法人設立 2022年12月(任意団体設立 2017年10月)
住所	神奈川県川崎市高津区新作1丁目22番13号104号室
ホームページ	https://www.tayounamanabi.com/
メッセージ	私たちの目指す未来: すべての子どもが自分らしく育ち安心と幸せを感じられる社会

取組の様子

◆ 周知に活用したチラシ

諏訪市在住（在勤）の小中学生の「保護者」「支援者」限定

子どもしたこと、自分のこと、
どうしたらいいの？

大丈夫。
あなたを支える仲間がいます。

学校や教室に行きづらい小中学生の
保護者・支援者の“あたたかな居場所”

全国に先駆け、諏訪市での実証実験！

Suwa City 諏訪市 × とまり木オンライン BY多様な学びプロジェクト

期間延長しました！ 2026年3月までの期間中、月会費1980円 → 0円！ 無料期間だけの参加OK！

とまり木オンライン 3つの特徴

- その1 今日からの安心につながる専門家のオンライン講座
- その2 仲間と出会うイベントやコミュニティ
- その3 講座アーカイブ 約100本、見放題！

詳細はサイトをご覧ください online.tayounamanabi.com とまり木オンライン

対象 諏訪市在住の小中学生の保護者の方
諏訪市在住・在勤の学校や教室に行きづらい小中学生の支援者の方

期間 2025年9月～2026年3月 ※12月頃に評価アンケートへのご協力をお願いします

お問い合わせ NPO法人多様な学びプロジェクト 高橋・生駒 research.j@tayounamanabi.com
諏訪市 教育委員会事務局 教育総務課 学務係
☎ (0266)52-4141 ✉ kyoiku@city.suwa.lg.jp

今すぐ無料で利用する！
登録はこちら▶▶▶

◆ 講座の紹介方法

特徴その3

講座アーカイブ約100本、見放題！

スマホでもPCでもどちらからも利用可能です。
「不登校の悩み」「経験談」「進路」「学びの多様性」など豊富なラインナップに、いつでも、どこからでもアクセスできます。

多様な学びプロジェクト代表 生駒知里が選ぶ おすすめ動画 10選


◆ メディアの掲載情報 (信濃毎日新聞社 2025年11月掲載)

不登校家庭 ネットでも支援

諏訪市、NPOと連携し実証事業

「外部とつながるハードル下げたい」

【メディア掲載】信濃毎日新聞に「内閣府×諏訪市×多様な学びプロジェクトとまり木オンライン実証事業」が掲載されました



令和7年度
地域における
孤独・孤立対策に関する
NPO等の取組事例集

内閣府孤独・孤立対策推進室

令和8年6月発行

〒100-8914 東京都千代田区永田町1-6-1 Tel. 03-3581-0458